

	シーズ名	慢性疾患の夜間高血圧・睡眠障害に関する研究
	所属・役職・氏名	代謝内分泌病態内科学・講師・山田 真介 (YAMADA, Shinsuke)

<要旨>

夜間高血圧や睡眠障害は心血管系疾患発症のリスク因子であり、多くの慢性疾患では心血管系疾患の罹患率が高いことが知られている。しかし、これら慢性疾患の夜間血圧および睡眠動態に関する研究報告はほとんどない。そこで、我々はそれぞれを24時間血圧計(ABPM:A&D社)および携帯型睡眠脳波計(図1:SLEEP SCOPE,スリープウェル社)でモニターし、各疾患とそれらの関連性について検討している。

<研究シーズ説明>



図1：SLEEPScope

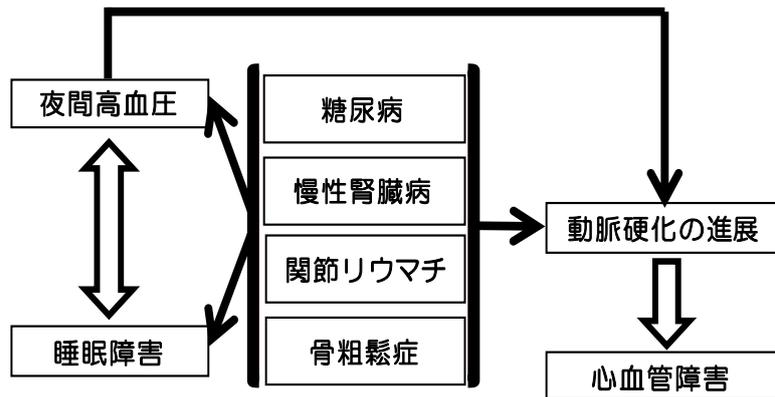


図2：本研究の想定モデル

<アピールポイント>

上記慢性疾患群の睡眠障害の合併率は高いが、その臨床的意義については不明な部分が多く軽視される傾向にある。また、血圧は昼間血圧で管理することが一般的であり、夜間就寝中の血圧をモニターする習慣はない。本研究により、慢性疾患における睡眠障害および夜間高血圧の合併頻度の高さを証明し、睡眠障害と夜間高血圧の関連性、さらにはそれらが動脈硬化の進展や心血管系疾患リスク因子となることを解明し、その重要性につき認識を広めたい(図2)。

<利用・用途・応用分野>

睡眠検査の gold standard である睡眠ポリグラフ検査 (Polysomnography : PSG) は、煩雑で専門施設での検査入院を必要とするが、SLEEPScope は PSG とほぼ同等の精度で、入院せず簡易に睡眠を評価できる。同様に、24時間血圧の測定は ABPM により容易に施行可能である。これら機器を利用し、睡眠障害や夜間血圧について、慢性疾患別にその頻度や要因を検討し、降圧剤や睡眠薬での治療反応性を観察することは、臨床的価値の高い研究であると考えられる。

<知的財産権・論文・学会発表など>

1. Yoda K, et al. Association between glyceimic control and morning blood pressure surge with vascular endothelial dysfunction in type 2 diabetic patients. Diabetes Care. 2014 37:644.
2. Yoda K, et al. Association between poor glyceimic control, impaired sleep quality, and increased arterial thickening in type 2 diabetic patients. PLoS One. 2015 14:e0122521
3. Hamamoto k, et al. Association of Nocturnal Hypertension With Disease Activity in Rheumatoid Arthritis. Am J Hypertens. 2016 29:340.

<関連するURL> <http://www.med.osaka-cu.ac.jp/interm2/>

<他分野に求めるニーズ> なし

キーワード	慢性疾患、睡眠障害、夜間高血圧、心血管リスク
-------	------------------------